

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年2月28日

関東運輸局

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における二次評価結果	備考	
							評価結果		
栃木県生活交通対策協議会	関東自動車株式会社	宇都宮駅～日光東照宮	・地域連携ICカードの導入	B	コロナの影響による需要に合わせたダイヤ改正を実施し、計画2,732.5回に対して、実績2,728.5回となり、計画していた運行回数に届かなかった。	C	・緊急事態宣言及び学校休校の影響により、目標391人/日に対して、279人/日となった。	時刻表、路線図の配布 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 ・目標・効果達成状況の未達成の要因として、新型コロナウイルス感染症の影響であることが確認できる。 ・バスロケーションシステムやICカードの利用状況などから得られたデータを活用し利用者の流動実態を把握した上で、運行計画改善の検討を進めていくことが望ましい。 ・広域な交通ネットワークの構築には、都県との連携が非常に重要であることから、市町村とも連携を図ったうえで、アフターコロナ・ウィズコロナにおける人流の変化をとらえ、データを分析し、円滑な移動を図る取組の実績を積み重ね、自家用車から鉄道やバスなどへと変化していくなどの議論がなされることを期待する。
	関東自動車株式会社	宇都宮駅～今市車庫	・地域連携ICカードの導入	A	コロナの影響による需要に合わせたダイヤ改正を実施し、計画1,917回に対して、実績1,953.5回となり、計画していた運行回数を超えた。	C	・緊急事態宣言及び学校休校の影響により、目標335人/日に対して、209人/日となった。	時刻表、路線図の配布 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	
	関東自動車株式会社	宇都宮駅～船生	・地域連携ICカードの導入	B	コロナの影響による需要に合わせたダイヤ改正を実施し、計画2,599回に対して、実績2,597回となり、計画していた運行回数に届かなかった。	C	・緊急事態宣言及び学校休校の影響により、目標388人/日に対して、262人/日となった。	時刻表、路線図の配布 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	
	関東自動車株式会社	宇都宮駅～免許センター～楡木車庫	・地域連携ICカードの導入	A	コロナの影響による需要に合わせたダイヤ改正を実施し、計画1,750回に対して、実績1,750回となり、計画していた運行回数とおりとなった。	C	・緊急事態宣言及び学校休校の影響により、目標196人/日に対して、133人/日となった。	時刻表、路線図の配布 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	
	関東自動車株式会社	宇都宮駅～荒針～鹿沼営業所	・地域連携ICカードの導入	A	コロナの影響による需要に合わせたダイヤ改正を実施し、計画2,405回に対して、実績2,405回となり、計画していた運行回数とおりとなった。	C	・緊急事態宣言及び学校休校の影響により、目標274人/日に対して、216人/日となった。	時刻表、路線図の配布 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	
	関東自動車株式会社	駒生営業所～屋板～上三川車庫	・地域連携ICカードの導入	A	コロナの影響による需要に合わせたダイヤ改正を実施し、計画1,774回に対して、実績1,899回となり、計画していた運行回数を超えた。	C	・緊急事態宣言及び学校休校の影響により、目標261人/日に対して、192/日となった。	時刻表、路線図の配布 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	
	関東自動車株式会社	駒生営業所～田原～玉生車庫	・地域連携ICカードの導入	A	コロナの影響による需要に合わせたダイヤ改正を実施し、計画2,018回に対して、実績2,019回となり、計画していた運行回数を超えた。	C	・緊急事態宣言及び学校休校の影響により、目標360人/日に対して、248人/日となった。	時刻表、路線図の配布 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	
	関東自動車株式会社	駒生営業所～田原～今里	・地域連携ICカードの導入	A	コロナの影響による需要に合わせたダイヤ改正を実施し、計画1,600回に対して、実績1,720回となり、計画していた運行回数を超えた。	C	・緊急事態宣言及び学校休校の影響により、目標280人/日に対して、165人/日となった。	時刻表、路線図の配布 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における二次評価結果	備考	
							評価結果		
栃木県生活交通対策協議会	関東自動車株式会社	駒生営業所～田原～グリーンタウン	・地域連携ICカードの導入	A	コロナの影響による需要に合わせたダイヤ改正を実施し、本系統を増便した為、計画1,484回に対して、実績1,484.5回となり、計画していた運行回数を超えた。	C	・緊急事態宣言及び学校休校の影響により、目標176人/日に対して、109人/日となった。	時刻表、路線図の配布 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	
	関東自動車株式会社	駒生営業所～平松～西汗	・地域連携ICカードの導入	B	コロナの影響による需要に合わせたダイヤ改正を実施し、計画1,992回に対して、実績1,991回となり、計画していた運行回数に届かなかった。	C	・緊急事態宣言及び学校休校の影響により、目標320人/日に対して、230人/日となった。	時刻表、路線図の配布 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	
	関東自動車株式会社	西原車庫～ベルモール～真岡営業所	・地域連携ICカードの導入	A	コロナの影響による需要に合わせたダイヤ改正を実施し、計画4,150回に対して、実績4,150回となり、計画していた運行回数とおりとなった。	C	・緊急事態宣言及び学校休校の影響により、目標676人/日に対して、417人/日となった。	時刻表、路線図の配布 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	
	関東自動車株式会社	宇都宮東武～橋場～真岡営業所	・地域連携ICカードの導入	B	コロナの影響による需要に合わせたダイヤ改正を実施し、計画1,673回に対して、実績1,671.5回となり、計画していた運行回数に届かなかった。	C	・緊急事態宣言及び学校休校の影響により、目標268人/日に対して、157人/日となった。	時刻表、路線図の配布 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	
	関東自動車株式会社	宇都宮東武～益子駅前	・地域連携ICカードの導入	B	コロナの影響による需要に合わせたダイヤ改正を実施し、計画1,189回に対して、実績1,186回となり、計画していた運行回数に届かなかった。	C	・緊急事態宣言及び学校休校の影響により、目標295人/日に対して、160人/日となった。	時刻表、路線図の配布 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	
	関東自動車株式会社	宇都宮東武～ベルモール～益子駅前	・地域連携ICカードの導入	A	コロナの影響による需要に合わせたダイヤ改正を実施し、計画3,273回に対して、実績3,275回となり、計画していた運行回数を超えた。	C	・緊急事態宣言及び学校休校の影響により、目標534人/日に対して、330人/日となった。	時刻表、路線図の配布 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	
	関東自動車株式会社	宇都宮東武～御幸ヶ原元町～岡本駅東口	・地域連携ICカードの導入	B	コロナの影響による需要に合わせたダイヤ改正を実施し、計画2,451回に対して、実績2,330回となり、計画していた運行回数に届かなかった。	C	・緊急事態宣言及び学校休校の影響により、目標201人/日に対して、86人/日となった。	時刻表、路線図の配布 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	
	関東自動車株式会社	宇都宮東武～上野団地～岡本駅西口	・地域連携ICカードの導入	B	コロナの影響による需要に合わせたダイヤ改正を実施し、計画3,413回に対して、実績3,405.5回となり、計画していた運行回数に届かなかった。	C	・緊急事態宣言及び学校休校の影響により、目標271人/日に対して、187人/日となった。	時刻表、路線図の配布 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	
	関東自動車株式会社	氏家駅～馬頭車庫	・地域連携ICカードの導入	B	コロナの影響による需要に合わせたダイヤ改正を実施し、計画2,428回に対して、実績2,424回となり、計画していた運行回数に届かなかった。	C	・緊急事態宣言及び学校休校の影響により、目標201人/日に対して、133人/日となった。	時刻表、路線図の配布 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における二次評価結果	備考
							評価結果	
栃木県生活交通対策協議会	関東自動車株式会社	西那須野駅東口～馬頭車庫	・地域連携ICカードの導入	B コロナの影響による需要に合わせたダイヤ改正を実施し、計画2,135回に対して、実績2,133.5回となり、計画していた運行回数に届かなかった。	B ・系統の統廃合により、目標220人/日に対して、216人/日となった。	時刻表、路線図の配布 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供		
	関東自動車株式会社	西那須野駅東口～五峰の湯	・地域連携ICカードの導入	B コロナの影響による需要に合わせたダイヤ改正を実施し、計画1,869回に対して、実績1,855回となり、計画していた運行回数に届かなかった。	C ・緊急事態宣言及び学校休校の影響により、目標247人/日に対して、158人/日となった。	時刻表、路線図の配布 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供		
	関東自動車株式会社	大田原市役所～五峰の湯	・地域連携ICカードの導入	B コロナの影響による需要に合わせたダイヤ改正を実施し、計画2,364.5回に対して、実績2,361回となり、計画していた運行回数に届かなかった。	C ・緊急事態宣言及び学校休校の影響により、目標236人/日に対して、160人/日となった。	時刻表、路線図の配布 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供		
	関東自動車株式会社	那須塩原駅～那須湯本温泉	・地域連携ICカードの導入	A 渋滞対策の臨時便運行により、計画6,570回に対して、実績6,582.5回となり、計画していた運行回数を超えた。	C ・緊急事態宣言及び学校休校の影響により、目標369人/日に対して、262人/日となった。	時刻表、路線図の配布 バスロケーション運行実績を基にダイヤ設定を行い、質の高い輸送サービスを提供		
	ジェイアールバス関東株式会社	塩原本線(西那須野～塩原温泉)	・企画乗車券を鉄道会社窓口でも発売することを継続した。 ・利用促進として、特殊定期券(学生)の発売を開始した。	A 計画どおり実施された。	C ・令和3年度は長引くコロナの影響により企画乗車券は発売枚数で54%、発売額は59%と対前年割れであった。 ・同様に、コロナの影響により利用客数は目標220人/日に対し、実績130人/日、昨年と区比べてもほぼ横ばいであり目標を大幅に下回った。	・鉄道とは引き続き連携しながら企画乗車券の発売していく。 ・他企業との提携等によりハイキングのモデルコース作りや、企画乗車券の設定を進めていく。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における二次評価結果	備考
							評価結果	
栃木県生活交通対策協議会	日光交通株式会社	路線名:鬼怒川線 起点:鬼怒川温泉駅 經由地:JR今市駅、下今市駅 終点:イオン今市 系統キロ:16.5km 運行回数:10.6回	①大型商業施設への乗入れを開始し、当該施設利用者の需要を取り込むことには成功した。 また、当該施設と連携しバス利用者や企画乗車券(フリーパス)購入者への特典を付与することで利用客増加に図ることで、企画乗車券の売上が目標としていた年120,000円(税込)を大幅に上回る年756,500円(税込)となった。 ②当初の予定よりも開始が遅れ、イオン今市店での企画乗車券の販売開始は令和3年10月1日からとなった。 ③令和3年2月よりジョルダンモバイルチケットにて企画乗車券「今市・鬼怒川1日フリーパス」を販売開始。 ④ホームページ等を利用し、より分かりやすい情報発信に努めることで、利用促進を図っている。	B 東京オリンピックの開催により祝日に変更になったため、計画に対して運行回数が減少した。 計画:3,870回 実績:3,868回 差引:▲2回	C 利用者目標:240人/日に対し、実績118人/日となり、目標を下回った。 目標不達成の要因:児童数減少の影響に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きかったと考えられる。	①今後も終点のイオン今市店と連携し、バス利用者やフリーパス購入者へ特典を付与することで利用促進を図っていく。 ②企画乗車券「今市・鬼怒川フリーパス」を終点のイオン今市店でも購入可能にし、利便性を向上させることでフリーパス購入者の増加を目指す。 ③利用客の利便性向上のためPayPayなどのQRコード決済を導入し、新規顧客層の開拓を図っていく。 ④ホームページ等を利用し、公共交通の利用促進を図っていく。	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 ・目標・効果達成状況の未達成の要因として、新型コロナウイルス感染症の影響であることが確認できる。 ・アフターコロナ・ウィズコロナ等における利用状況等の検証を行うとともに、利用者を起点とした効果的な利用促進策を実施することが望ましい。 ・広域な交通ネットワークの構築には、都県との連携が非常に重要であることから、市町村とも連携を図ったうえで、アフターコロナ・ウィズコロナにおける人流の変化をとらえ、データを分析し、円滑な移動を図る取組の実績を積み重ね、自家用車から鉄道やバスなどへと変化していくなどの議論がなされることを期待する。	
第三者委員会における各委員からの意見								
令和3年度地域公共交通確保維持改善事業第三者評価委員会における委員による以下の助言は、今後の取組みを行う上で必要な観点であり、考慮されたい。 ○交通が都市の中で重要な役割を担っているが、公共交通だけではなく自転車や徒歩などを含め全体を体系化し、色々な組み合わせをしながらチャレンジすることが重要。 ○県や市町村それぞれの役割を考え、オリジナリティを出すことにこだわらず、他の良い事例を学び、まちの事情に合わせて取り入れていくことが重要。								